自治基本条例をつくる会 会議概要

第13回会議	
開催日時	平成19年10月24日(水) 18:30~20:30
開催場所	山陽小野田市役所 第2委員会室
出席会員	17名 岩崎秀司、岩本信子、衛藤弘光、岡村啓二、河野朋子、木林紀生男、杉本保喜、酒井敏正、徳重洋子、長谷川眞幸、林久芳、平原廉清、松尾知勝、室住友子、山田義隆、山本克己、弓取康英
出席職員	市長公室長、行政改革課長
協議概要	<p>1. 山陽小野田市民まつりへの参加について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●チラシ作成について、原案どおり承認 ●会場設営、会場内のレイアウト等について確認 当日9時に現地集合、リボン着用のこと。 ●現在、行政・議会・市民の問題点・課題点について、会員の意見を抽出したが、更に細分化する等、整理しなおさないといけない。山陽小野田市民まつりでの市民の意見を加え、その上で解決策・条例化へと結びつけていかなくてはならない。これらをまとめて11月には、自治会等各団体に説明していくような段取りにもっていければと思う。 ●自治基本条例をつくるということは、任意団体のみでつくと訳ではないということをも市民に認識してもらわないといけない。まつりに参加するにしても市の公募によって活動しているということを示していく必要がある。我々の捉え方と市民の捉えかたは違うと思う。 ●過日、市政説明会で使用されたパンフレットは、裏面に市長公室行政改革課との表示があるし、まつりで活用できる。 ⇒当該パンフレットをまつりで配布する。 ●まつりで使用するポスターを作成してきた。⇒披露。 <p>2. 市民アンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ●次回はまつりで出てきた意見を集約し、会員意見と併せ問題点の再整理していく。作業班をつくる必要があるかも。 ●活動の密度を高めていくべき。ニュースレターを出すにしても回収方法を検討しなければ意見は出てこない。公民館で回収しようとしてもよほど意識の高い人でなければ自ら出向いて投函はしない。 ●ニュースレターでの意見を回収、市民の中に出ていって意見を回収する2つのパターンを今現在考えている。 ●アンケートを市民全員からとるのはどうか、以前の話では、回覧板を利用し各家庭に配布して公民館等で回収するということがあったが、回収を自治連を通じて全ての自治会長にお願いするのも難しい。私の考えでは、全部に配布する必要はない。ある自治会にお願いするとして自治会単位で考えてはどうか。 ●アンケートに係る市の財政的措置はどうか。 ⇒公費の中で2000件の意向調査について郵送料をみている。

- 大和市では、地域懇談会等を開催し意見の抽出をしてきた。
- 懇談会の開催は、時期尚早だ。会としての意見が統一されていない。法令の勉強も足りない。公民館での回収でも良いと思う。人が介在しないほうが自由に自分の意見を書いてもらえて良いのではないか。
- その手法では何パーセントも回収できないのではないか。折角、アンケートを実施しても回収が少なければ集計したデータとして弱い。何百のデータがなければ分析ができない。
- 意識の醸成を図る手段でもあるので、意見が少なくても意味はある。
- いや、もっと良い効率的な方法があるのではないか、金銭的な負担の少ない方法があるのではないかとの提案だ。
- 市民の隅々まで自治基本条例の必要性を知らせ、意識の醸成を図るのは大事。ニュースレターにアンケートを付けて、出来るだけ多く回収する努力をするべき。また、会員の意見だけでなく市民全員の中から意見を聴く必要があるからアンケートはしなくては行けない。大変だとばかり言うておれない。
- 自治連に配布の願いは出来ても回収は難しいだろうと思うが、まずは自治連に投げかけてみては。
- 自治連の市広報等の回覧物は、配布が目的で回収は入っていない。自治会長に回収をお願いする以外にも市内在住の市職員がいる。
- 各団体をお願いをできるレベルになっているか、回収ボックスでの回収で数も少なくても心ある意見が得られるのではないか。
- 現段階でどこまで求めるのか、アンケートの中身にもよるが、先ずみんなに知らせることが大事では。
- 郵送の場合は、義務感が出てそれなりの回収率がある。
- 市広報を利用し、回収のみに郵送料がかかる手法をとってみるのはどうか。
- 県の意向調査でも3000件ぐらいの統計である。
- アンケートで何を市民に問うか、自由意見だけ聴くならば回収率は問題にならない。
- 問題点・課題点について意見を聴くのでは。
- 立ち上げて半年が経過した自治基本条例をつくる会の存在を知っているかあたりから聴いて、自治基本条例の内容を知らせ、必要性を聴いて、行政等への不満等を自由記述で聴くように順序だてたアンケート項目にしてはどうか。
- 取りあえず1回目は問題点だけ。A4表裏を使い1枚。この中で書ける範囲。今、市民・行政・議会の3つの問題点が出ている。1枚で収まるか分からない。
- 2枚に亘るかも知れない。今、何十項目と出ている。
- つくる会に出席しなくても条例づくりに参加しているという意識がアンケートに出てくる。しかし、アンケートはこちらの意図した方向にいつてしまう危険性がある。先ず第1回目は市民の認識を大きな項目立てで自由記述で書いてもらうことが必要。そこで出てきたものを踏まえて次のステップに移ってはどうか。
- つくる会はまだまだ市民に認知されていない状況。まつり等のイベントに出て行って、情報発信していかなくてはならない。アンケートも大事だが、ニュースレターのV o 2を出すに当たってはつくる会の活動の内容が主で、それについてのご意見を頂くことでいいのではないか。

●活動をやっていく内に、自治会連合会に是非、仲間に入ってもらわなければならないのではないか。その時に、ある程度我々の実績をつくっておかないといけない。いきなり話をもっていっては、難しい。つくる会がどんどんアピールして必要がある。議会にしてもそうだ。地道な作業を重ねていかねばならないと思っている。

●根幹はまちづくり・ふるさとづくりなのだから、ふるさとづくり推進協議会にお願いし、そこからの意見・回答もあっていい。料金別納方式で封筒で投函すれば回収率は確かに高まる。市民へ問うのに早い遅いはない。出来れば市民の声を問うのは早いほうが良いと思う。

●アンケートの内容は、自治基本条例が本当に必要かどうかというところから入るようになるのか。比較的、重いアンケートになってくると思う。問題点を全部含めたアンケートになるのか。アンケートの内容によって話し合いの内容が変わってくる。

●今はニュースレターを発行する中で、我々の抽出した問題点に対し市民の皆さんはどう思われますか、ということを書いて出してもらえれば良いというだけだ。

●先進地の事例から、自治体の憲法とはいえ、謳っていいものと謳えないものがある。それは別にして皆の意見を聴こうじゃないかというところ。我々はそれを集めてソースにして我々の自治基本条例はどうあるべきか、つくり上げていかななくてはいけない。そこまでいって初めてアンケートの話になるんじゃないかと思う。そしてアンケートが誘導的であってはならないというところも入ってきてアンケートが出来上がると思う。

●このアンケートはかなりランダムにとっていくアンケートになる。だけれど今はニュースレターで流して裏面を利用して反応を見る。まだ低いレベルで市民を巻き込んでみようじゃないかというのが第1回目のアンケートになると思う。

⇒ホームページの利用も出来る。

問題点を列記して市民の意見を問うという形で行いたい。

今回は、山陽小野田市民まつりの反省と出てきたものの整理していく。

次回以降の開催予定

第14回、平成19年11月14日（水）18:30～

第1委員会室

第15回、平成19年11月28日（水）18:30～

第2委員会室